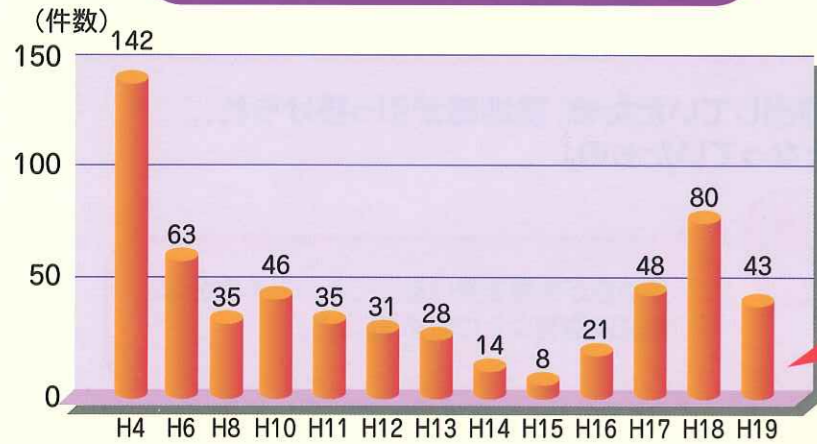


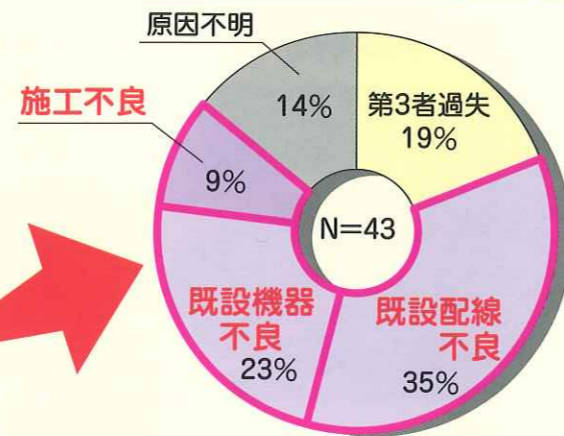
新增設工事現場から 絶縁不良をなくそう!!

計測器を用いた自主検査の徹底等の効果により絶縁不良通知数は、低い水準で推移していますが、発生数「0」件には至っていません。

関西電力管内の絶縁不良通知の推移



H19年度絶縁不良通知内訳



適切な自主検査時期の選定と計測器を活用した
自主検査の実施により絶縁不良をなくしましょう!

1. 電気工事の施工不良をなくしましょう

自らの工事技能の向上を図るとともに、自主検査の徹底を行い、安全配線の施工に努めましょう

2. 第3者過失による不良をなくしましょう

同一工事現場にて工事を実施している他の業者へPRを行い、電気配線への第3者からの被害防止に努めましょう

3. 既設設備の検査・改修も実施しましょう

増設工事現場においては、増設部分はもちろんのこと既設配線・既設機器を含めた自主検査を行い、不良設備の改修を実施しましょう

不良設備発見例

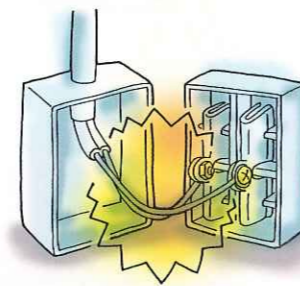
●既設配線不良例1



既設の門灯、屋外配線が絶縁不良となっていた。

対策:
屋外配線は管路に納め、紫外線も考慮した屋外用資材を使用する。
増設部分の検査だけでなく、既設設備に対しても検査を実施する。

●既設配線不良例2



コンセントBOX内にて被覆の剥ぎすぎによりVVFケーブルがコンセントBOXに接触し絶縁不良となっていた。

対策:
電線の被覆を剥ぐ時は、接続器に明示されているストップゲージにより、必要最小寸法を剥ぎ接続を行うこと。

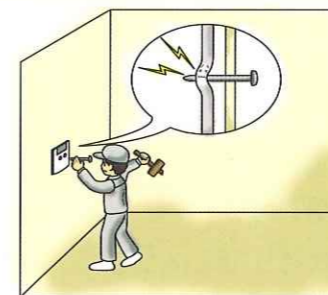
●既設配線不良例3



エアコン室外機への配線が経年劣化のため、絶縁不良となっていた。

対策:
増設分の検査のみでなく、既設配線や機器を含めた検査を行い、不良設備があれば改修を行う。

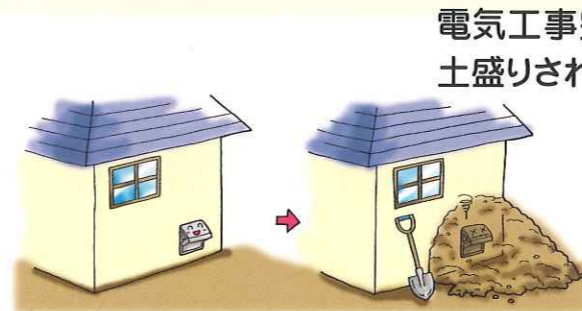
●第3者過失例1



自主検査完了後に警備システム業者が、警備システム操作盤取り付けのため、屋内隠蔽配線へヒスを打ち込んだことにより絶縁不良となった。

対策:
適切な検査時期を選定するとともに、過去の事例を踏まえた他業者へのPRおよび注意喚起を行う

●第3者過失例2



電気工事完了後、屋外コンセント部分へ外溝工事業者により土盛りされ、絶縁不良となっていた。

対策:
施工現場での周辺状況を把握の上、他業者からの被害を被らないように必要に応じて注意喚起を行う。